

令和4年度 教育方法改善のための 自己点検・評価（授業評価等）実施状況調査票

1. 学生による授業評価

(1) 実施状況

別紙1「令和4年度 授業評価実施状況一覧」のとおり

(2) 実施組織

学部等	大学側（学生側）
大学教育・ 学生支援機構	大学教育学生支援機構 大学教育センター学部教務委員会 教養教育部会
共同教育学部 教育学研究科	共同教育学部教務委員会
情報学部	情報学部教務委員会
社会情報学部 社会情報学研究科	社会情報学部教務委員会 社会情報学研究科大学院学務委員会
医学部 医学科	医学科教務部会（学友会）
医学部 保健学科	保健学科教育課程専門委員会
医学系研究科	医科学専攻教務委員会 生命医科学専攻教務委員会
保健学研究科	保健学研究科教務委員会
理工学部 理工学府	教務委員会（理工学部生、理工学府生）

(3) 実施方法

学部等	実施方法
大学教育・ 学生支援機構	全学部生の必修科目である「学びのリテラシー（1）（2）」と「データ・サイエンス」について、大学教育センター学部教務委員会教養教育部会において、設問項目を審議のうえ実施を決定し、教務システムのアンケート機能を利用して、WEBアンケートを実施した。
共同教育学部 教育学研究科	教務システムのアンケート機能を利用して、WEBアンケートを実施した。
情報学部	教務システムのアンケート機能を利用してWEBアンケートを実施した。
社会情報学部 社会情報学研究科	教務システムのアンケート機能を利用してWEBアンケートを実施した。
医学部 医学科	1－6年次の各科目についてアンケートを実施した。また、4年次～6年次の臨床実習（必修）（選択）においては、学生による診療科ごとの実習評価を実施した。教務システムのアンケート機能を利用して、WEBアンケートを実施した。
医学部 保健学科	平成26年度までは、授業担当教員を通じて紙媒体で授業評価アンケートを実施していたが、平成27年度からは、教務システムのアンケート機能を利用して、WEBアンケートを実施した。対象となる授業科目は、保健学科全ての専門教育科目である。

学部等	実施方法
医学系研究科	医科学専攻の基礎連続講義及び医学基礎技術実習の履修者並びに生命医科学専攻の基礎科目の履修者を対象に、教務システムのアンケート機能を利用してWEBアンケートを行った。
保健学研究科	比較的受講者の多い博士前期課程の3科目において、教務システムのアンケート機能を利用して、WEBアンケートを行った。 授業実施中に、教員が学生にアンケートへの回答を依頼するとともに、事務からも履修者へ回答依頼メールを送信し回答を促した。
理工学部 理工学府	教務システムのアンケート機能を利用したWEBアンケートにより、理工学府専任教員が担当する理工学府・理工学部の全科目を対象として、中間調査（意見任意）及び最終調査を実施した。

(4) アンケート結果に基づく 自己点検・評価

学部等	結果概要・課題・具体的な改善事例など
大学教育・ 学生支援機構	<p>【実施概要】 令和4年度からは、専門科目との履修調整に配慮し、これまで後期に開講していた医学部保健学科の「データ・サイエンス」をオンデマンド化したため、オンデマンド科目についても、別途アンケートを実施した。 アンケート結果は、ほぼ全ての項目について肯定的な回答が8割～9割を占めており、昨年度に比べて全体的に若干の改善傾向が見られた。アンケート実施の対象とした必修科目は、令和4年度においては、オンラインから対面へ移行したことも影響しているものと推測される。</p> <p>【課題】 医学部医学科において、他学部に比べて、肯定的な回答の割合が低い傾向がある。</p> <p>【具体的な改善事例】 医学部医学科において、肯定的な回答の割合が低い設問が目立つことについては、昨年度の全学学部教務委員会においても認識が共有されたところである。医学科生の持つ特性が他学部の学生とは異なることが要因と推測されるため、当該傾向を改善することは難しいと考えるが、いずれの設問も、前年度よりは、肯定的な回答の割合が増加した。 昨年度実施アンケートの結果において、教養教育科目全般について、オンラインを利用した授業に対する肯定的な回答が9割程度となっており、学生に肯定的に受け止められていることがわかった。このことを踏まえ、令和4年度からは、「英語」の再履修クラスのオンライン化及び「データ・サイエンス」のオンデマンド化等を実施し、教育の質を担保しつつ、学生の履修環境の利便性向上を図った。</p>
共同教育学部 教育学研究科	<p>【実施概要】</p> <p>① 学部学生の授業満足度では、9割以上の学生が肯定的な評価をしている。（「満足している」「どちらかという満足している。」）また、大学院学生の総合評価では、全ての学生が「優れている」「やや優れている」と、肯定的な評価をしている。</p> <p>② 学部において「予習・復習をしなかった」と回答した学生が1割強であったが、コロナ禍前の令和元年度アンケートでは3割5分の学生が「予習・復習をしなかった」と回答しており、改善していることがわかった。</p> <p>③ 大学院学生の総合評価で「優れている」の割合は、全コース平均で7割であり、「やや優れている」まで含めると、10割が肯定的評価であった。また、「この授業で特によかった点、特に改善すべき点」については、いずれのコースも全ての項目について「特によかった」または「現状でよい」が9割を超えており、全体として肯定的に評価されている。</p>

学部等	結果概要・課題・具体的な改善事例など
	<p>【課題】</p> <p>① 学部の授業において、全体の1割に満たない割合ではあるが、「授業の進め方」「説明内容の分かりやすさ」において、改善すべきと評価された授業がある。</p> <p>② 学部の授業において、シラバスを「参照しなかった」「あまり参照しなかった」と回答した学生が合わせて約5割いる。</p> <p>③ 大学院の授業において、いずれのコースも「特に改善すべき点」は見当たらなかったが、今後とも継続して自己点検を行っていくことが必要と思われる。</p> <p>【具体的な改善事例】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● グループを設定しディスカッションの時間を設け、お互いの意見を発表しあい協議する時間を積極的に設けた。 ● 授業内課題については過度な量にならないよう配慮した。 ● メディア授業では遠隔教室の学生への対応が不十分にならないよう配慮した。
情報学部	<p>【実施概要】</p> <p>情報学部は令和3年度に新設された学部であるため、対象は1・2年次生となる。</p> <p>「この授業を4段階で評価してください」との項目では、前期・後期ともに9割以上の学生が「優れている」又は「やや優れている」と回答しており、総じて高い評価であった。</p> <p>実施に当たっては、教務係から掲示板への掲示、教務システムのお知らせへの掲載及び複数回にわたり回答を呼びかけるメッセージを送信した。また、一部の必修科目の授業において、授業担当教員から協力を呼びかけた。併せて、集中講義以外の科目の回答期限を前年度よりも前倒しすることで早期の回答を促した。</p> <p>【課題】</p> <p>「予習・復習に週何時間くらいを費やしたか」との項目では、「1時間未満」又は「予習・復習はしなかった」と回答した学生が前後期と共に約6割いる。(ただし、授業の課題に取り組む時間を含めずに回答している可能性がある。)</p> <p>【具体的な改善事例】</p> <p>アンケートの文言を改善することにより、より正確な実態を明らかにする。</p>
社会情報学部 社会情報学研究科	<p>【実施概要】</p> <p>令和3年度より情報学部が新設され、社会情報学部は学生募集を停止したため、対象は3・4年生となる。</p> <p>社会情報学部では「この授業を4段階で評価してください」との項目で、前期・後期ともに95%以上の学生が「優れている」又は「やや優れている」と回答しており、総じて高い評価であった。</p> <p>社会情報学研究科では、「授業内容は興味を持てるものでしたか」との項目で、前期では98%が、後期では全ての大学院生が肯定的な回答をしている。</p> <p>実施に当たっては、教務係から掲示板への掲示、教務システムのお知らせへの掲載及び複数回にわたり回答を呼びかけるメッセージを送信した。また、一部の必修科目の授業において協力を呼びかけた。併せて、集中講義以外の科目の回答期限を前年度よりも前倒しすることで早期の回答を促した。</p> <p>【課題】</p> <p>社会情報学部では、「予習・復習に週何時間くらいを費やしたか」との項目では、「1時間未満」又は「予習・復習はしなかった」と回答した学</p>

学部等	結果概要・課題・具体的な改善事例など
	<p>生が、前期に約 60%、後期に約 47%いる。(ただし、授業の課題に取り組む時間を含めずに回答している可能性がある。)</p> <p>社会情報学研究科においては特になし。</p> <p>【具体的な改善事例】 アンケートの文言を改善することにより、より正確な実態を明らかにする。</p>
医学部 医学科	<p>【実施概要】 チーム医療実習の満足度が低かったが、その要因は新型コロナウイルス感染症拡大防止のために医療施設の現場に赴くことができずオンラインによる代替実習となってしまったことにあると考えられた。医系の人間学等複数科目で、評価が厳しいのではないかと、評価基準が不明確という回答があった。いずれの科目も評価基準についてシラバスに記載しているが、学生にはわかりにくい部分があった可能性がある。</p> <p>臨床実習に関するアンケート調査では、全ての質問項目において平均して 72%の回答者が「A」と評価していた。令和 4 年度も新型コロナウイルス感染拡大防止のために病棟における実習内容の制限やオンラインでの代替実習を実施せざるを得ない期間があった。このため、十分な実習が行えず残念であったという意見がみられた一方、各種制限下においても対面で実習を行った各診療科へ感謝の言葉もみられた。</p> <p>大学附属病院よりも学外実習施設の方がやや評価が高かったが、新型コロナウイルス感染症の流行によって実習が中止になった場合にオンライン実習とせずに附属病院の診療科で振替実習を行ったためであると考えられる。</p> <p>【課題】 昨年度に引き続き新型コロナウイルス感染症拡大防止のために、学外の病院や施設における実習が行えず、オンライン実習や通常の講義で代替せざるを得なかったことから、学生の満足度の低下につながっていると考えられる。感染症の状況によるが、できる限り現場での実習が実現できるよう関係各所に理解を求めていく必要がある。</p> <p>各科目の評価については複数の会議で吟味されているところであり、また評価方法についてはすべての科目においてシラバスに明記されていることを確認している。学生にとってわかりにくいものについては、授業内で十分周知する必要がある。また、評価の在り方については継続的に検討していく必要がある。</p> <p>大学附属病院より学外実習施設の方が学生には実習での充実感が少し高かったと考えられる。</p> <p>アンケートの回収数が去年より少し減少した。回答方法が前年度と異なることに学生の戸惑いがあった可能性がある。</p> <p>【具体的な改善事例】 チーム医療実習では、学外施設の方のご理解を得て、学生に最大限、現場での実習の機会を提供することが重要であることを確認した。令和 5 年度の実習では全員が現場での実習に行ける見込みである。</p> <p>各科目の評価については、引き続きすべての科目においてシラバスに明記することを求める。また、評価の在り方について、科目の特性に応じた複数回の F D を企画・実施した（詳細は 3. に記載）。</p> <p>臨床実習においては、高い評価を得た実習内容を自由記述から分析し、臨床実習運営委員会等の会議で大学附属病院の診療科に報告し、大学附属病院での実習に役立ててゆく。</p> <p>アンケートの回収数の減少について、貴重なフィードバックの機会なので、学生への周知を徹底して回収数の向上を図りたい。</p>
医学部 保健学科	【実施概要】

学部等	結果概要・課題・具体的な改善事例など
	<p>令和4年度は保健学科会議等で教務システムにてアンケート実施中であることを周知し、科目担当教員から学生に対してアンケートに回答するよう依頼を行い、各教員からも授業時に口頭で周知するなど、保健学科全体として回答率の向上に努めているところだが、令和4年度後期の回答率は45.4%となり、昨年度から約7%回答率が低下した。</p> <p>アンケート結果について、「この授業に対する総合評価をしてください」との問いに対しては、優れているが占める率は、令和4年度前期68.8%、後期70.6%との結果になっており、概ね高い評価を得た。</p> <p>【課題】 昨年度と比較すると回答率が低下したため、回答率向上の取り組みが必要になると考える。</p> <p>【具体的な改善事例】 教員は学生の授業評価アンケート結果を閲覧できること、授業評価アンケート全体の結果を公開していることを認識し、更なる授業の改善に努めている。</p> <p>また、アンケート回答率の改善に関しては、引き続き各授業担当教員からも授業時に口頭で周知するなどにより、保健学科全体として向上に努める。</p>
医学系研究科	<p>【実施概要】 教務システムのアンケート機能を活用し、医科学専攻の基礎連続講義及び医学基礎技術実習の履修者並びに生命医科学専攻の基礎科目の履修者を対象にWEBアンケートを行った。</p> <p>【課題】 授業の内容についての不満はほとんど見られなかったが、自由記述の回答が多くなかった。</p> <p>【具体的な改善事例】 自由記述の回答率を増加させるため、回答依頼の際に自由記述の回答を呼びかける。</p>
保健学研究科	<p>【実施概要】 例年回答率の低い科目があるため、教員からの回答呼びかけに加え、事務から数回回答依頼を送信したが、回答率が昨年を下回ってしまった。アンケート結果について、授業に興味を持てたか、という問いに5段階評価で4以上の回答が83%（23人中19人）各科目の総合評価は5段階評価で4以上の回答が93%（23人中21人）と概ね肯定的であった。授業内容への評価は昨年度とほぼ同様であったが、授業への取り組みが消極的またはやや消極的と回答した学生が5人おり、昨年度の29人中1人に比べ、増加している。</p> <p>【課題】 アンケート調査を実施している3科目について、昨年度はオンラインで実施していたが、今年度は原則対面（コロナウイルス感染症による理由などやむを得ない場合にオンライン可）または、オンラインと対面を交互に行っていた。講義前に事務や教員へオンライン参加を希望する学生が数人おり、自由記述欄に「オンライン対応が困難だったため欠席せざるを得なかった」との回答があるなど、社会人の多い保健学研究科ではオンラインでないことに不満を持つ学生もおり、授業への取り組みにも影響があった可能性がある。</p> <p>【具体的な改善事例】 令和4年6月の教授会にて「群馬大学大学院保健学研究科における授業形式に関する申合せ」を定め、コロナウイルス感染症の感染拡大によるもの以外でも遠隔授業を行えることとした。後学期科目は事前に学生へ各科目の授業形式を周知することにより、学生からの問い合わせは減少した。</p>
理工学部	<p>【実施概要】</p>

学部等	結果概要・課題・具体的な改善事例など
理工学府	<p>前年度からの変更点はなく、本アンケート結果に関する学生と教員との懇談会を学科単位で開催し、意見交換を実施、それらを踏まえて類・学科内での点検を行った。</p> <p>アンケート結果について、授業中あるいは授業後に不明な点を教員に質問したかの設問では、不明な点があったが質問をしなかったの回答が学部1年生後期の専門教育科目では、34%であった。</p>
	<p>【課題】</p> <p>授業内容でわからないことを質問しないでそのままにしている学生がいる。</p>
	<p>【具体的な改善事例】</p> <p>授業担当教員のメールアドレスに質問をしたり、学習管理システム上で質問を受け付けたりするなどの受け皿が整っているので、もっと積極的に質問をしてわからないまま授業を受けることがないよう、学生にダイレクトメールなどで働きかけをおこなっていく。</p>

2. 学生との懇談会

(1) 実施状況

学部等	名称	実施月日	大学側参加者数	学生側参加者数	内容
大学教育・学生支援機構	学長と学生との懇談会	R4. 12. 6	6名	15名	・オンライン授業について ・教養教育について
共同教育学部 教育学研究科	学部長との懇談会	R5. 1. 24	7名	30名	学習環境、授業内容等
	大学院での学修に関する意見聴取（教職リーダーコース）	R5. 3. 24	4名 (教務部会)	12名 (M1, M2 全員対象)	課題研究、実習、大学生活全般
	院生との懇談会（授業実践開発コース）	R5. 3. 18	6名	14名 (M1 及び M2)	課題研究、実習、大学生活全般
	院生との懇談会（特別支援教育実践開発コース）	R5. 2. 11	8名	5名 (M1 及び M2)	課題研究、実習、大学生活全般
情報学部	学部長との懇談会	R4. 11. 2	11名	16名	学部長と学部学生との懇談
社会情報学部 社会情報学研究科	学部長との懇談会	R4. 11. 2	11名	16名	学部長と学部学生との懇談
	研究科長との懇談会	R5. 1. 24	7名	3名	研究科長と大学院生との懇談
医学部 医学科	令和4年度後期教職員と医学科学友会による懇談会	R5. 2. 13	34名	30名	教職員と学生間の意見交換
医学部 保健学科	群馬大学医学部保健学科学友会との懇談会	R5. 1. 18	29名	13名	教員や事務部職員等と学生が授業内容、本学の設備等について意見交換
医学系研究科	該当なし				
保健学研究科	保健学研究科懇談会	R5. 2. 1	6名	4名	入試制度やカリキュラム等についての意見収集
理工学部 理工学府	授業改善アンケートに関する学生と教員との懇談会（環境創生理工学科環境エネルギーコース2・3年生）	R4. 9. 28	教員4名	64名	学生との意見交換（Zoomのチャット機能で意見を聴取し、教員が回答）
	授業改善アンケートに関する学生と教員との懇談会（化学・生物化学科3年生）	R4. 11. 1	教員19名	175名	説明は、3年生対象の授業科目を、授業担当教員が説明する形で実施した。

学部等	名称	実施月日	大学側参加者数	学生側参加者数	内容
	授業改善アンケートに関する学生と教員との懇談会（電子情報理工学科情報科学コース2～4年生）	R4. 11. 8	教員3名	57名	対面参加者と Zoom 参加者から LiveQ (https://web.liveq.page/ja/) を通じて意見や質問を事前に・リアルタイムに匿名で受け付け、教員側が回答
	授業改善アンケートに関する学生と教員との懇談会（電子情報理工学科・電気電子コース3・4年生）	R4. 11. 22	教員2名	10名	授業評価アンケートの分析結果について説明し、これらの結果について、学生から感想・意見等を求めた。
	授業改善アンケートに関する学生と教員との懇談会（機械知能システム理工学科3年生）	R4. 12. 7	教員4名	74名	3年生が受けている教育に関して、学生からの意見・提案・質問を GoogleForm で聴取し、匿名でそれらを紹介し、出席教員が回答した。また、学生からの授業評価アンケートを受けて、複数の講義担当教員から聴取した学生へのフィードバックを伝達した。
	授業改善アンケートに関する学生と教員との懇談会（電子・機械類2年生）	R4. 12. 12	教員11名	147名	類2年生が受けている教育に関して、学生からの意見・提案・質問を GoogleForm で聴取し、匿名でそれらを紹介し、出席教員が回答した。また、学生からの授業評価アンケートを受けて、複数の講義担当教員から聴取した学生へのフィードバックを伝達した。
	授業改善アンケートに関する学生と教員との懇談会（環境創生理工学科社会基盤・防災コース3年生と土木環境プログラム2年生）	R5. 2. 1	教員3名	14名	事前に GoogleForm にて質問を受け付け、当日回答した。

学部等	名称	実施月日	大学側参加者数	学生側参加者数	内容
	授業改善アンケートに関する学生と教員との懇談会（物質・環境類2年生）	R5. 2. 14	教員2名	46名	説明は2年生対象の授業科目を、授業担当教員が説明する形で実施した。
	大学院理工学府長と学生との懇談会	R4. 12. 19	教員5名 事務職員10名	15名	オンライン授業・進学・教育に関する学生の意見聴取を主とした、理工学府長と学生との懇談

(2) 懇談会での意見に基づく自己点検・評価

学部等	結果概要・課題・具体的な改善事例
大学教育・学生支援機構	<p>【実施概要】 参加学生数をコロナ禍前の人数に近づけ、より多くの学生の意見を聞けるようにした。また、大学側参加者と参加学生が向かい合わないように座席を交互に配置し、学生が意見を言いやすいような雰囲気づくりを行った。結果的に、活発な意見交換が行われた。</p> <p>【課題】 意見交換の結果、「語学の授業では特に対面を希望する学生が存在すること。」及び「オンライン授業のみではストレスを感じる学生が多いこと」が分かった。</p> <p>【具体的な改善事例】 令和5年度から原則対面の授業となり、学生同士がコミュニケーションをとる機会が大幅に増大するものとする。</p>
共同教育学部 教育学研究科	<p>【実施概要】</p> <p>① 学部においては、数年ぶりに対面で開催し、カリキュラム、遠隔授業、設備等について要望があり、意見交換を行った。</p> <p>② 大学院においては、授業、課題研究、実習、課題研究支援金等、学生生活全般について意見聴取を行った。</p> <p>【課題】</p> <p>① 学部において、以下のような意見があった。</p> <ul style="list-style-type: none"> 遠隔授業の際の機器トラブルにより授業開始が遅れることがある 宇都宮大学との共同教育学部設置に伴い卒業要件単位数が155単位まで増え、卒業要件外免許等を考えると各学期の履修登録上限が苦しい 駐車場が不足している <p>② 大学院において、教職リーダーコースの意見聴取では、以下の課題が明らかになった。</p> <ul style="list-style-type: none"> 卒業式の土曜日や祝日開催 実習における先進校視察、(独)教職員支援機構研修等参加の促進 実地研修の充実(コロナ禍のため少ない印象) 課題研究、報告書について「見通し」や「ゴールのイメージ」を持たせる工夫 <p>【具体的な改善事例】</p> <p>① 学部において、令和5年度より集中講義をCAP上限から除外する規程改正を行った。なお、根本的に改編したカリキュラムを令和6年度入学生から適用できるよう、宇都宮大学と合同で検討を進めている。</p> <p>② 大学院において、昨年度の課題であった3コース間の情報共有に関しては、他コースの院生も受講する可能性がある集中講義科目について、事前に日程等を把握し、調整したうえで全てのコースの院生に知らせることとした。</p>

学部等	結果概要・課題・具体的な改善事例
情報学部 社会情報学部 社会情報学研究科	<p>【実施概要】 情報学部は令和3年度に新設された学部であり1・2年次生のみであるため、社会情報学部と合同で開催した。 令和3年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のためオンラインで開催したが、令和4年度は後期から対面での授業が可能となったため、懇談会も対面で開催した。 例年、学生の参加者が少ないため、事前に掲示、教務システムでの周知、担当学生からの声掛けを行ったところ、当日の参加者が数名増えた。</p> <p>【課題】 新大学院の設置について知りたいという声があったが、未決定事項のため明確な説明ができなかった。 学生との意見交換内容は別紙報告書のとおり。</p> <p>【具体的な改善事例】 令和5年度には、1年前倒して令和6年度に情報学研究科を設置する構想が具体的となり、大学ホームページにおいて進捗状況を公表した。 学生からの意見・要望への対応は別紙報告書のとおり。</p>
医学部 医学科	<p>【実施概要】 3年振りに対面にて、学友会及び学生と教職員の意見交換の場を設け、日頃の授業や学修環境について、貴重な意見交換の場となった。例年より多くの学生参加があり、多方向からの意見を聞ける良い機会となった。</p> <p>【課題】 学友会による授業アンケート（1.に記載）及び施設等に対するアンケートの内容を踏まえ、各教職員が丁寧に対応をし今後の授業のあり方や学修環境等について、意見交換を行った。特に図書館の24時間利用及び自習スペースや学生駐車場の確保や課外活動施設の改善について継続的な課題があった。</p> <p>【具体的な改善事例】 懇談会を踏まえ、授業関係については、教務部会及びカリキュラム評価委員会・検討委員会などで継続的に検討を行う。 学生駐車場については、リリカ利用者に学生駐車場の土日利用を許可するなどの改善を行った。 また、体育館の部室棟については、全ての鍵の付け替えを行い、防犯上の管理強化を行った。 図書館については、令和5年度に24時間利用再開に向け、前向きな検討に入った。</p>
医学部 保健学科	<p>【実施概要】 授業内容や、教室等の設備の状況や教務システム等について、教職員と学生で意見交換を行った。 学友会が実施したアンケートによると、現在のカリキュラムについては、肯定的な意見が302件に対し、否定的な意見が28件であったことから、学生からは概ね肯定的な評価を得た。また、備品や設備について満足しているかについては、肯定的な意見が282件に対し、否定的な意見が39件であり、カリキュラムと同様に、学生から概ね肯定的な評価を得た。</p> <p>【課題】 オンライン授業については、動画やパワーポイントを使用した講義資料を取り入れることにより、対面方式の授業と遜色なく実施できた一方で、通信環境により講義内容の一部を聞き取れなかったりする等の弊害が生じた。 また、設備について老朽化している個所があることが確認された。</p> <p>【具体的な改善事例】 令和5年度の授業は原則対面方式で実施することから、通信環境により講義内容を聞き取れない等の弊害は発生しない見込みである。</p>

学部等	結果概要・課題・具体的な改善事例
	<p>また、老朽化した設備等については、計画的に更新を行っていくことで対応する。</p>
保健学研究科	<p>【実施概要】 保健学研究科は社会人の学生が多いため、夕方よりオンラインでの開催とした。教務システムおよびメールにて参加学生を募ったが、参加希望がなかったため、各領域の教員が参加学生を選出した。カリキュラム等に対する不満の声はなく、遠隔授業の実施や電子書籍の充実度に満足しているとの意見があった。</p> <p>【課題】 学部から大学院へ進学した学生から、学部時代に大学院について知る機会があまりなかったとの意見が出された。 また、懇談会自体についても、事前に指導教員および事務より学生へ参加依頼をしていたが、年度末に近い時期に急遽声掛けをしたためか、当日参加した学生が4名のみであった。実施時期や参加学生募集について検討する必要がある。</p> <p>【具体的な改善事例】 「学部時代に大学院について知りたかった」という意見を受けて、昨年度の修士論文発表会について教務システムやメールで学部生へも周知を行い、各領域数名ずつではあるが、参加者が見られた。 懇談会の参加者を増やすため、実施時期について前期授業終了後の8・9月に変更することを考えている。参加者を募ると同時に、各領域の教員から候補者を選出してもらい、日程調整を行うなど、学生の参加者を増やせるようにする。</p>
理工学部 理工学府	<p>【実施概要】 (授業改善アンケートに関する学生と教員との懇談会) GoogleForm や Zoom のチャット機能などを活用して質問がしやすい方法で学生からの率直な意見を引き出し、回答について教員からフィードバックした。 (大学院理工学府長と学生との懇談会) 対面で実施。テーマ(オンライン授業・進学・教育)に沿って学生から意見を聴取して教職員から質問に対する回答をした。</p> <p>【課題】 (授業改善アンケートに関する学生と教員との懇談会) すべての学生が懇談会に出席とはならず、出席しない学生がいた。</p> <p>【具体的な改善事例】 (授業改善アンケートに関する学生と教員との懇談会) 学生が出席しやすい状況にさせるために、必修授業の終わった後に懇談会を実施するなどを試みた。</p>

3. FD活動

(1) 実施状況

学部等	実施組織	名称	実施月日	教員参加者数	内容
大学教育・学生支援機構	大学教育・学生支援機構 大学教育センター	第14回 全学FD連続講演会 「大学教育のグランドデザイン」	R4. 11. 7	150名	大学院改革について、先行する筑波大学の取組みについて講演を実施（オンライン）
	大学教育・学生支援機構 大学教育センター	令和3年度群馬大学ベストティーチャー賞 公開模擬授業	R4. 7. 28 ～ R4. 10. 31	262名	学長賞受賞者3名による公開模擬授業を実施（群馬大学講習会用Moodleを利用したオンライン研修）
共同教育学部 教育学研究科	共同教育学部	「教員間相互授業研究Week」（ピア・レビュー週）	R4. 11. 14 ～ R4. 11. 25	11名	授業改善を目的とした他教員の授業参観
	共同教育学部 （教員養成FD活動推進委員会）	附属学校園・公開研究会	R4. 6. 10 外	24名	附属小学校における公開研究会（オンライン） 外
	共同教育学部 （教員養成FD活動推進委員会）	教育実習A, C, Dおよび幼稚園教育実習	R4. 9. 20 外	9名	附属小の授業参観 外
	共同教育学部 （教員養成FD活動推進委員会）	附属小学校・提案授業及び授業研究会	R4. 11. 8 外	10名	附属小での授業研究 外
	共同教育学部 （教員養成FD活動推進委員会）	附属学校園における大学教員の公開授業	R4. 7. 14 外	6名	小学校プログラミング 外
	共同教育学部 （教員養成FD活動推進委員会）	新任教員FD研修会	R4. 5. 31 外	9名	共同教育学部の歴史、組織、特色 外
	教育学研究科／群馬県教育委員会	公開シンポジウム 「ぐんまの教師力を高める2022」	R4. 11. 20	20名	教職大学院を修了した現職教員による、課題研究、課題解決実習、およびその後の実践の話題提供、および大学院教員と県教委指導主事を交えたシンポジウム（オンライン）

学部等	実施組織	名称	実施月日	教員参加者数	内容
	教育学研究科	教職リーダーコースFD	R5. 3. 4	14名	教職リーダーコース教員OBによる教育講演（オンライン）および教職リーダー現任教員による指定討論
	教育学研究科	授業実践開発コースFD	R5. 3. 23	19名	授業実践開発コースにおける学生指導（目標・内容・方法）（オンライン）
	教育学研究科	特別支援教育実践開発コースFD	R5. 3. 15	8名	特別支援教育実践開発コースにおける学生指導（課題研究の内容やそれへの教員の関わり方）についての意見交換
情報学部 社会情報学部 社会情報学研究科	社会情報学教育・研究センター	新任教員セミナー・シリーズ	R4. 6. 22	42名	令和4年度に着任した新任教員の研究紹介（オンライン・オンデマンド）
			R4. 7. 27	29名	
			R4. 9. 28	40名	
			R4. 11. 30	38名	
医学部 医学科	医学科教務部会	臨床実習の評価に関するFD	R4. 10. 28	30名	新カリキュラムにおける臨床実習でのパフォーマンス評価方法の説明と実践
	医学科会議	授業「医系の人間学」説明会	R4. 11. 8	18名	授業「医系の人間学」に関する授業概要をスライドやビデオを使用し教員へ説明
	医学科会議	「医療プロフェッショナル」教育講演会	R5. 1. 10	30名	「プロフェッショナルリズムの醸成」として、専門家による講演を実施
	医学科会議	「医療プロフェッショナル」教育講演会	R5. 2. 14	28名	「初年次からはじまる6年間一貫水平・垂直統合教育におけるプロフェッショナルリズム」として他大学での事例紹介を実施
	医学科教務部会	医学教育教授法FD	R5. 2. 18	166名	「成績評価についての理解を深める」として、評価の原則や、組織的な確認に関する専門

学部等	実施組織	名称	実施月日	教員参加者数	内容
					家による講演を実施
	医学科教務部会	医系の国語表現FD	R5. 3. 16	14名	科目の在り方や他の科目との連携、課題設定、評価方法について、科目担当者を対象とした現況の紹介およびディスカッションを実施
医学部 保健学科 保健学研究科	保健学科	第1回保健学教育FD	R4. 9. 20	65名	ベストティーチャー賞受賞者による公開模擬授業を実施
	保健学研究科 (保健学科との合同開催)	第2回保健学教育FD	R4. 10. 11	46名	令和4年度 大学院授業英語化推進FDセミナー(兼:保健学科FD)にて各大学のダブルディグリーの取組みを紹介
医学系研究科	群馬大学大学院医学系研究科医科学専攻教務委員会・生命医科学専攻教務委員会	群馬大学大学院医学系研究科FD	R5. 3. 9	76名	医学系研究における統計解析の基礎知識について
保健学研究科	保健学科との隔年開催のため、令和4年度は該当なし				
理工学部 理工学府	理工学部	前期公開授業	R4. 6. 13 ～ 7. 15	11名	教員相互の公開授業(アンケート回答者41名)
	理工学部	後期公開授業	R4. 12. 11 ～ R5. 1. 27	15名	教員相互の公開授業(アンケート回答者57名)

(2) FD活動に基づく自己点検・評価

学部等	結果概要・課題・具体的な改善事例
大学教育・ 学生支援機構	<p>【実施概要】</p> <p>全学FD連続講演会では、本学でも令和6年度の設置に向けて対応中である「大学院改革」について、先行する筑波大学の取組みについて講演を実施した。</p> <p>またベストティーチャー賞の学長賞受賞者による公開模擬授業についても、群馬大学講習会用Moodleを利用したオンライン研修として実施した。</p> <p>【課題】</p>

学部等	結果概要・課題・具体的な改善事例
	<p>全学実施のFDは、全教員に対して原則参加を周知しているが、時間・場所の制約もあり、対面での実施では、受講できない教員が多いことが、例年の課題となっていた。</p> <p>【具体的な改善事例】 令和2年度以降、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、オンライン（期間を設けての動画配信）での実施となった。このことにより、教員の受講実績が飛躍的に増加し、各教員の授業改善に役立てることができた。また「ベストティーチャー賞の公開模擬授業（動画）」は、群馬大学YouTubeにおいて学外に公開し、一般向けの広報を行った。</p>
共同教育学部 教育学研究科	<p>【実施概要】 附属四校園で行われた研究会や教育実習の授業を参観した教員からは、この活動をとおして、学生にどのような教育をすべきか、また、学校現場が抱える課題に対して自身の専門性を活かした研究課題についても考える機会になった等有意義なものであった旨の回答を得た。 大学院教職リーダーコースでは、教職リーダーコース元准教授を講師に招き、学習指導をテーマとした教育講演を行った。その後、コース教員による指定討論と、今後の指導の課題点等について参加者全員で検討した。授業実践開発コース及び特別支援教育実践開発コースでは、コース内の学生指導について、講座間で情報共有を行った。</p> <p>【課題】 大学院において、3コース共通のFDの機会がない点については、以下の改善事例に示したように部分的に改善を行ったが、なお課題となっている。</p> <p>【具体的な改善事例】 公開研究会においてICT活用についてのワークショップを行い、個人の実践的な取り組みを共有したことにより、実際に講義をする上での参考となった。 新任教員研修会参加により、共同教育学部の制度的背景、本学と宇都宮大学における設置の経緯、現状の課題と展望について理解できた。 大学院において、前年度課題であった、3コース共通のFDの機会がないという点について、「ぐんまの教師力を高める2022」を授業実践開発コース、教職リーダーコースの両コースからテーマを立てる形としたことで、コース間の共通性・協働性を高めた。今後は特別支援教育実践開発コースも含め、3コース共通のFDを実現する検討を行いたい。</p>
情報学部 社会情報学部 社会情報学研究科	<p>【実施概要】 令和4年度に情報学部に着任した新任教員による研究報告及び意見交換を、授業終了後の夕方にオンラインで複数回にわたり実施した。当日参加できなかった教員の希望に応じて、動画を公開した。これにより、多くの教員が参加し、講義の手法等についての見聞を広げ、教育の質向上や授業の改善に結びついた。</p> <p>【課題】 オンラインでの開催に加え、オンデマンド対応の体制も整えていたが、各回に全ての教員が参加することはできなかった。</p> <p>【具体的な改善事例】 セミナーの開催を早めに教員へ案内する。引き続きオンラインにて実施し、参加しやすい環境を整える。リアルタイムで参加できない場合は、オンデマンド対応を行うことを開催前後に周知する。</p>
医学部 医学科	<p>【実施概要】 ① 臨床実習の評価に関するFD 群馬大学の臨床実習においてパフォーマンス評価の1つである mini-CEX の普及を促す目的から、群馬大学内の各診療科から主に学生実習に関わる教員を対象に、外部の専門家による講義及び演習を実施した。ま</p>

学部等	結果概要・課題・具体的な改善事例
	<p>た、令和5年より開始される新カリキュラムによる臨床実習におけるルーブリックによる態度・技能を評価する試みも紹介した。</p> <p>② 医療プロフェッショナル教育講演会 プロフェッショナル教育の一環として実施している科目の評価について、その評価方法が学生にわかりにくいとの声を受け、新たに計画した。医学教育学会プロフェッショナル教育委員会による講演会及び他大学の医学教育専門家による医療プロフェッショナル教育の実例紹介の講演会を実施した。いずれの大学でも、プロフェッショナル教育は初年度から継続して実施しており、その評価の工夫について紹介していただいた。</p> <p>③ 医学教育教授法FD 毎年実施しているものである。昨年度にひきつづき学習者評価の基本的な考え方及び具体的な評価方法、評価の組織的な確認の方法について、参加者を対象としたアンケート結果に基づき実践的に教授していただいた。</p> <p>④ 医系の国語表現FD 医系の国語表現担当教員のみならず、同じく「文章の理解や適切な作成」を目的とする科目「学びのリテラシー」の担当教員も参加し、活発な意見交換を行った。講義開始当初時の学生のレポートが、講義期間の終盤になるにつれ、どのように変化していくかなど具体的な事例をもとに議論を行った。</p>
	<p>【結果】</p> <p>① 臨床実習の評価に関するFD これまでに群馬大学において十分に活用されていなかった評価方法を体験することにより、学生評価に対して理解、積極的に取り組む教員が増えたと考えられた。</p> <p>② 医療プロフェッショナル教育講演会 プロフェッショナル教育の考え方や、他大学での実例について学び、本学のプロフェッショナル教育への示唆が得られた。評価に対する納得感を得ることが難しいという問題点について、他大学でも同様の状況にあることも参考になった。</p> <p>③ 医学教育教授法FD 参加者を対象としたアンケート結果を共有しながら講演していただいたので、参加者の理解が進んだと考えられる。</p> <p>④ 医系の国語表現FD 医学科のカリキュラムの特性を踏まえた教育についての理解が深まったと考えられる。テキストが学生にとって読みやすいかなど、他の科目の学修もある中でレポートを作成する学生側の負担も考慮し、テキストの選定を行う際に多方面からの視点が必要であることが共有認識された。</p>
	<p>【課題】</p> <p>① 臨床実習の評価に関するFD 新カリキュラムにおいて各診療科の実習担当者のみならず、多くの教員の理解、同意を得られ、新たな評価方法が円滑に導入できるかが課題である。</p> <p>② 医療プロフェッショナル教育講演会 プロフェッショナル教育は特定の教室が担当するものではなく、学科全体として取り組む必要があることから、カリキュラム検討委員会、評価委員会でもこれらのFDの内容を踏まえた検討を行っていく必要がある。</p> <p>③ 医学教育教授法FD</p>

学部等	結果概要・課題・具体的な改善事例
	<p>教育内容と評価については、継続的に見直していく必要があるため、今後も定期的にFDで取り上げていく必要がある。</p> <p>④ 医系の国語表現FD 実際に文章作成能力が向上したことを学生に実感してもらえるようなバランスの取れたテキストの選定を行うことが課題である。</p> <p>【具体的な改善事例】 ①現在各診療科での臨床実習要項を作成していただいている。評価方法について具体的な改善計画に関してはこれから確認する予定である。 ②③学習者評価に関する理解が深まったことにより、各科目において令和5年度の評価方法の見直しが行われ、いくつかの科目では改訂が行われた。 ④適切なテキストの選択について意見交換が行われ、具体的な教育の改善にもつながった。</p>
<p>医学部 保健学科 保健学研究科</p>	<p>【実施概要】 第1回保健学教育FDでは、各授業担当教員の教育方法の工夫や改善を促し、自らの教育に対する質保証の主体としての自覚のため、ベストティーチャー賞受賞者による公開模擬授業を実施した。(教員参加率 91.5% (71人中65人が参加)) 第2回保健学教育FDでは、各大学のダブルディグリーの取組みの紹介をし、英語での授業の必要性等に対する理解を深めた。(教員参加率 64.7% (71人中46人が参加))</p> <p>【課題】 教育課程専門委員会においてFDの実施状況が報告され、各専攻において社会の変化にあわせて教育方法を工夫する等、継続的に授業の改善に取り組むことが確認された。</p> <p>【具体的な改善事例】 FDの内容を踏まえ、各教員が授業方法の工夫、内容成績の改善及び成績評価を付ける際の改善に主体的に取り組んでいる。</p>
<p>医学系研究科</p>	<p>【実施概要】 Zoomでの開催は教員が参加しやすいことが昨年度の実施で確認できたため、今年度もオンライン開催とした。教員76名の出席があった。 質の高い研究にとって大切なポイントとなる医学研究における正しい統計解析の進め方について講義があり、今後の大学院教育に有益な情報が得られた。</p> <p>【課題】 特になし</p> <p>【具体的な改善事例】 特になし</p>
<p>理工学部 理工学府</p>	<p>【実施概要】 前回は、Zoomを活用するなどして実施したが、対面授業での実施となった。 公開授業に参加した教員が前期は11名、後期は15名と参加者が少なかった。</p> <p>【課題】 対面授業となってからはオンライン授業の時より参加者が少なくなっている。また、業務が多忙で参加できない理由がアンケートから見受けられる。(アンケート結果では公開授業は、有益との意見が毎年一定数存在する)</p> <p>【具体的な改善事例】 公開授業について、より多くの教員が参加できるような工夫を今後検討していく。</p>

4. 学生等への意見調査（在学生、卒業（修了）生、就職先及び保護者など）

(1) 実施状況

学部等	名称	実施月日	対象者・人数	内容
大学教育・ 学生支援機構	全学卒業時 アンケート	R4. 12 ～ R5. 3	令和5年3月 卒業生 499名 (前年度 581名)	学部卒業生を対象にした、学生生活、教養教育科目等についてのアンケート調査(オンライン)
	全学修了時 アンケート	R4. 12 ～ R5. 3	令和5年3月 修了者 289名 (前年度 245名)	大学院修了生を対象にした、研究環境や進路選択の支援等についてのアンケート調査(オンライン)
	全学学習ふりかえり アンケート	R4. 12 ～ R5. 3	学部生(卒業年次以外) 1,420名 (前年度 1,511名)	卒業年次以外の学部生を対象にした、1年間の学習内容についてのアンケート調査(オンライン)
共同教育学部 教育学研究科	教育実習A及びB に関するアンケート	R4. 11	学部3年生 196名	教育実習の充実度に関するアンケート
	課題研究報告会参加者 アンケート(教職リーダーコース)	R5. 2	報告会参加者・有効回答数 50名	教職リーダーコース課題研究報告会の報告内容に関するアンケート
	教職リーダーコース課題研究 中間報告会(1)参加者アンケート	R4. 8	有効回答数 21名	M1による中間報告会に関するアンケート
	教職リーダーコース課題研究 中間報告会(2)参加者アンケート	R5. 2	有効回答数 36名	M1による中間報告会に関するアンケート
	課題研究レビュー報告会(授業 実践開発コース)	R4. 8	報告会参加者・有効回答数 11名	M1による課題研究レビュー検討会に関するアンケート
	課題研究計画検討会(授業 実践開発コース)	R5. 2	検討会参加者・有効回答数 18名	M1による課題研究計画検討会に関するアンケート
	課題研究報告会(授業 実践開発コース)	R5. 2	報告会参加者・有効回答数 38名	M2による課題研究報告会に関するアンケート
情報学部	該当なし			
社会情報学部 社会情報学研究科	卒業時アンケート	R5. 2. 11	115名	学部生としての活動を総括するアンケートを実施
	修了時アンケート(教育 評価アンケート)	R5. 2. 18	7名	大学院生としての活動を総括するアンケートを実施

学部等	名称	実施月日	対象者・人数	内容
医学部 医学科	令和4年度医学科卒業時アンケート	R4. 10. 31	6年生・130名	学部独自の調査項目をカリキュラム評価委員会が設定し、6年次生を対象にカリキュラムや学生生活に関する満足度等を調査
	医系の人間学のアンケート	R5. 1. 27	1, 2, 3年生・391名	医系の人間学の授業に関するアンケート
医学部 保健学科	卒業予定者アンケート	R5. 1. 17 ～ R5. 3. 31	令和4年度保健学科卒業予定者 159名	今後における教育・学生支援の充実のため、卒業予定者を対象にアンケートを実施
医学系研究科	重粒子線医理工学グローバルリーダー養成プログラム修了生及び就職先へのアンケート	R5. 3 ～ R5. 6	令和3年度修了生 5名 就職先担当者 5名	修了生に対しては、身についたことや、満足度についてアンケート調査、就職先担当者に対しては、修了生の能力、資質、業務内容等についてアンケート調査を実施
保健学研究科	群馬大学全学修了時アンケート調査	R4. 12. 15 ～ R5. 3. 31	保健学研究科修了者 18名	大学院での研究、カリキュラムに関するアンケート調査
理工学部 理工学府	理工学部における卒業時アンケート調査	R5. 1. 16 ～ 3. 23	学部4年次 (520名) 回答数 (302名)	授業科目や課程に関する意見や満足度、進学先等
	2022年度修了時アンケート調査【理工学府博士前期(修士)課程】	R5. 1. 4 ～ 3. 31	大学院(博士前期)2年次 (340名) 回答数 (220名)	カリキュラムや研究に関する意見及び満足度、進路等
	2022年度修了時アンケート調査【理工学府博士後期課程】	R5. 1. 4 ～ 3. 31	大学院(博士後期)3年次 (53名) 回答数 (16名)	カリキュラムや研究に関する意見及び満足度、進路等

(2) 意見調査に基づく 自己点検・評価

学部等	結果概要・課題・具体的な改善事例
大学教育・学生支援機構	<p>【実施概要】</p> <p>昨年同様に、学部の「卒業時アンケート」、大学院の「修了時アンケート」及び卒業年次以外の学部生を対象とした「学習ふりかえりアンケート」について、大学教育センター学部(大学院)教務委員会において、設問項目を審議のうえ実施を決定し、教務システムのアンケート機能を利用してWEBアンケートを実施した。</p> <p>いずれのアンケートにおいても「学習に対して前向きな姿勢であったこと」や「群馬大学ディプロマポリシーに関連する、「専門的学識・技能の修得」などの経験」については、前年度から継続して安定的な回答を得ることができた。また複数の設問で、新型コロナウイルス感染症(COVID-</p>

学部等	結果概要・課題・具体的な改善事例
	<p>19) の影響を確認することができほか、全体として回復・改善の傾向がみられる（結果のポイントについては、添付資料を参照）。</p> <p>また昨年度から、令和6年度の実施を予定している卒業（修了）後の意見聴取に向けて、卒業（修了）後の連絡先を登録するよう依頼をしていたが、今年度については、「卒業時アンケート」と「修了時アンケート」に当該設問を追加し、情報の収集を行った。</p> <p>【課題】 オンラインアンケートについては、回答数が減少傾向にある。学生を対象としたオンラインアンケートの件数が増加傾向にあるため、学生の負担軽減と、回答率の向上が継続課題である。</p> <p>【具体的な改善事例】 アンケート回答期限の1週間前に、対象学生に対して教務システムから回答依頼のメッセージを送信したほか、依頼時等の複数回、メッセージ送信を行ったが、回答数は改善せず、昨年より減少となってしまった。</p>
共同教育学部 教育学研究科	<p>【実施概要】 実習の充実度、実習期間の設定、実習A（基礎実習）における経験をB実習（応用実習）へ活用できたかについて、おおむね9割の学生が肯定的な評価をしている。また、実習校への割り振りの満足度はおおむね8割の学生が肯定的な評価をしている。</p> <p>課題研究報告会については、3コースそれぞれ別日程で、オンラインで開催された。他コースの院生や教員、外部の参加者も一定数見られた。</p> <p>教職リーダーコースでは、ディプロマポリシーのねらいを達成しているものとして、高く評価されていた。高評価の理由としては、次のようなことがあげられた。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①勤務校の課題を踏まえた研究と実践である。 ②他の教員と協働する実践が行われている。 ③1年目に学んだ理論や知識を生かして課題解決に取り組んでいる。 ④勤務校の学校づくり、教員の職能成長に資する優れた成果が得られている。 ⑤今後も持続的に取り組み、他校・教育関係者とも共有が望まれる成果が得られている。 ⑥プレゼンテーションがわかりやすかった。 <p>【課題】 全体の割合に比べればわずかであるが、実習期間設定と実習校の割り振りについては改善すべきと評価された部分である。関連し、実習を受け入れる学校について、様々な理由から実習人数を縮小する学校が出てきており、今後の安定した受け入れについて努力する必要がある。</p> <p>大学院の教職リーダーコースの報告会では、以下の課題が指摘された。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①教員一人の授業改善で閉じた研究は少し残念 ②発表時間が短く、理論・先行研究—自分の実践—検証をバランス良く伝えるのは難しい。 ③教職員の負担感への配慮、勤務校の実際の先生方の様子が気になる。 ④要旨集だけでなく、スライド資料も共有してもらいたい。 ⑤質疑応答がもう少し長くてもよいのではないかと。 ⑥院生や学生からの発言がほしかった。 ⑦今後も、「教職実践演習」「教職実践基礎演習」の一環として、教職大学院報告会を公開することが望ましい。 <p>【具体的な改善事例】 実習期間等については、各実習校や教育委員会との調整が必要となるため、引き続き教育実習委員会において検討を続ける。</p> <p>「教職実践演習」「教職実践基礎演習」の一環として教職大学院報告会を公開する予定である。</p>

学部等	結果概要・課題・具体的な改善事例
	<p>また、教職員の負担感への配慮については、現職院生の実習単位の一部免除制度の導入により、間接的に教職員の負担軽減ともなることを見込んでいる。</p>
<p>社会情報学部 社会情報学研究科</p>	<p>【実施概要】 社会情報学部では卒業研究発表会において、また、社会情報学研究科では修士論文最終発表会において、それぞれアンケート用紙を配付し実施・回収した。回収率については、社会情報学部が 80.8%、社会情報学研究科が 100%であった。「社会情報学部（社会情報学研究科）での学生生活（研究生生活）は充実したものでしたか」との質問に対し、「とても充実」又は「充実」と回答した者は、社会情報学部が昨年度より向上し 93.9%、社会情報学研究科が前年度と同様に 100%であったことから、学生生活（研究生生活）に満足し、高く評価していることが伺われた。</p> <p>【課題】 大学院進学情報の提供について「あまり行われていなかった」、「ほとんど行われていなかった」、「わからない」と回答した社会情報学部生が 45.4%であり、前年度よりも約 10%減少したが、更なる広報活動の工夫が必要であると考えられる。</p> <p>【具体的な改善事例】 社会情報学研究科においてはリカレント教育の役割を大きく担っており、社会情報学部から直接進学する者はほぼいない状況である。社会情報学部においては、年度当初の履修ガイダンスにおいて大学院の説明時間を設けており、その他、大学院説明会の開催案内を掲示及びメール等で周知したが、学生にとって必要性を感じない情報として認識されたと思われる。 引き続き、学生への周知を必要とするところではあるが、令和 6 年度に向けて新大学院の設置を構想中であり、これが認められた場合は令和 6 年度からの社会情報学研究科を募集停止とする。認められなかった場合であっても、今後設置される大学院の情報が学生の目に触れる機会を増やしていく。</p>
<p>医学部 医学科</p>	<p>【実施概要】 今年度は、県内出身者が群馬県へ残る率としてやや減になっているように見受けられるが、全体の評価としては、学習・生活支援や施設、カリキュラム、達成度・アウトカム等の調査項目について、全ての項目で 75%以上が満足との評価であり前年度より少し下がったが、特にカリキュラム及び達成度・アウトカムについては、90%以上が満足との高評価であり前年度の傾向とさほど変わらなかった。</p> <p>【課題】 学習・生活支援や施設については、コロナ禍においても自習室での修学の機会が増え、コロナ禍前でも声があったが、6 年生全員分の自習室の確保やネット環境での不便性及び学生駐車場の確保の要望などの意見は継続して散見され引き続きの課題である。</p> <p>【具体的な改善事例】 実習の機会については、コロナ禍においても、各受入れ施設内で感染対策等の充実により実習の機会を増やす方法や院内への振替により、今年度においても学生の実習の機会が減らない工夫を行った。また、ネット環境については、令和 4 年度に病院のシステム更新に伴い、アンテナの AP 数を増やしネット環境の改善に努めた。</p>
<p>医学部 保健学科</p>	<p>【実施概要】 平成 29 年度から全学の卒業時アンケートを実施することになったため、同年度から保健学科独自の卒業時アンケートも実施している。 保健学科での学習により「顕在的・潜在的課題に対し、幅広い教養と科学的根拠に基づく適切な判断力と、問題解決能力を持つ。」「チーム医療に</p>

学部等	結果概要・課題・具体的な改善事例
	<p>において、関係する人々との相互理解と円滑な協働関係を築き役割を發揮できる。」等の目標をどれくらい達成できたかを問う質問においては、「とてもそう思う」「まあそう思う」の合計で、8割を超えていることから、学生の目標は概ね達成しているものと判断できる。</p> <p>【課題】 保健学科での学習により「多様な地域社会の中で、グローバルな視野に基づく自己開発力と専門性を高める意欲を持ち人々の健康に貢献する。」をどれくらい達成できたかを問う質問に対し、「あまり思わない」「まったくそう思わない」の合計が2割弱であったことから、この目標をどのように達成していくかが課題になっている。</p> <p>【具体的な改善事例】 教育課程専門委員会においてアンケート結果が共有され、上記課題があることから、各教員がこれらの能力を高められるような授業を行えるよう、改善に取り組んで行くことが共有された。</p>
医学系研究科	<p>【実施概要】 重粒子線医理工学グローバルリーダー養成プログラム令和3年度修了生5名と令和3年度修了生の就職先担当者5名へアンケートを行った。修了生から、海外の留学生、研究者と研究交流をもてる貴重な機会であったことを修了後に感じたという意見があった。就職先へのアンケートでは、身につけている能力として「専門能力」「国際性」「問題解決能力」「協調性」と回答があり、学生の目標は概ね達成できているものと判断できる。</p> <p>【課題】 アンケートが複数回答を許しているのか不明なため、答えにくいという意見があった。</p> <p>【具体的な改善事例】 回答依頼の際に複数回答が可である旨を明記する。</p>
保健学研究科	<p>【実施概要】 「学問固有のもの見方や考え方に触れられた」について「とてもあてはまる」「まああてはまる」という回答が博士前期課程、博士後期課程ともに100%、また、「カリキュラムを全体としてどう評価するか」との問いに対し「十分である」「おおむね十分である」という回答も100%であったことから、保健学研究科の教育および研究に対する評価は肯定的であるといえる。</p> <p>【課題】 「高度な専門性または国際性を必要とする職業を担う能力を身につけた」の設問に対して他の設問に比べ「あまりそう思わない」という回答が多かった。特に「国際性」については、現在大学院授業の英語化を進めているところではあるが、教員や学生の意見を聞きながら、今後の対応について考えていく必要がある。</p> <p>【具体的な改善事例】 教員および学生へ、授業英語化の実施状況や英語化の必要性等についてアンケート調査を行う（学期末予定）。 また、昨年度は英語化推進室との合同FDとして、ダブルディグリーの取組について他大学院の講師による講演を行った。</p>
理工学部 理工学府	<p>【実施概要】 卒業生からの声を今後の理工学部の運営に反映させるため、毎年アンケート調査を実施している。 理工学部アンケート調査における卒業後の進路について、企業への就職が34.67%、大学院等の進学が62.00%と全体の半数が大学院へ進学をしている。卒業研究を行ったことが技術者、研究者としての生き方や考え方、問題解決への意欲などに良い影響を与えているかの設問については、93.81%が与えていると回答があり、役立っていることが伺える。教務シ</p>

学部等	結果概要・課題・具体的な改善事例
	<p>システムのポートフォリオを役立たせることができたかの設問では、72.55%ができていないと回答した。</p>
	<p>【課題】 教務システムのポートフォリオをもっと活用して役立ててもらおう。</p>
	<p>【具体的な改善事例】 ポートフォリオの役割、メリット等、学生に理解してもらうよう具体的な活用例を示して、教務システムから学生に周知する。 (参考：役割等) 学生と教員が学習の到達点や、これからの課題をともに確認し、共有し、教員から助言をもらいながら学修成果を可視化して問題把握を行うことにより、何をしないといけないのか認識できる。 学生生活で何をしたいのか、卒業後の将来の夢など目標を明確にすることにより、自己評価しながら、振り返り、目標達成につなげる働きがある。</p>

5. 学外者の意見や第三者評価等の結果の活用

(1) 実施状況

学部等	名称	実施月日	概要
大学教育・ 学生支援機構	該当なし		
共同教育学部 教育学研究科	教育実習A、C、D運営 協議会、教育実習B運 営協議会	R4. 7. 27 R4. 6. 29	教育実習前の意見交換（教育委員 会、実習校）
	教育実習A、C、D研究 協議会	R4. 11. 30	教育実習後の意見交換（教育委員 会、実習校）
	教育実習B研究協議会	R4. 11. 30	教育実習に関する意見交換（教育 委員会、実習校）
	教職大学院教育課程連 携協議会	R5. 3. 2	教職大学院における教育課程に関 する意見交換（教育委員会、公立 学校長、公立学校教諭等）
情報学部 社会情報学部 社会情報学研究科	該当なし		
医学部 医学科	カリキュラム評価委員 会	R4. 4. 17 R4. 7. 4 R4. 12. 12 R5. 2. 20 R5. 3. 10	他大学教員、群馬県関係者を外部 委員に委嘱し、カリキュラムに関 する情報共有や意見交換を行って いる。
医学部 保健学科	該当なし		
医学系研究科	該当なし		
保健学研究科	該当なし		
理工学部 理工学府	学外委員による外部評 価委員会	R4. 10. 26 （第1回委 員会） R4. 12. 21 （第2回委 員会）	学外の委員（企業、大学、高専な ど）によるカリキュラム等に対す る評価・意見交換。R4年度も、R 3年度につづきコロナ対策のため 外部評価委員による実地見学を行 わず配布資料に基づくオンライン 会議とした。（機械知能システム理 工学科・機械プログラム）

(2) 意見等に基づく 改善事例

学部等	結果概要・課題・具体的な改善事例
共同教育学部 教育学研究科	<p>【意見・指摘事項等】 実習校から、実習生の授業の進め方や生徒指導等について、それぞれ意見・感想が述べられた。 教職大学院教育課程連携協議会では、各コースからカリキュラムや院生指導の状況についての概要説明があった後、教職大学院の教育課程の全般について、意見交換が行われた。特に現職院生のM2における多忙化解消について意見が出された。</p> <p>【具体的な改善事例】 実習校からの意見を、教育実習委員会において検討し、実習方法等の見直しや学生への指導を行う上での参考とした。</p>

学部等	結果概要・課題・具体的な改善事例
	現職院生の多忙化解消については、一定の教職経験を有する現職院生について、実習科目の一部の単位を免除する検討を進めている。
医学部 医学科	<p>【意見・指摘事項等】 外部委員からは、進級についての制度設計や留年者のフォローアップについて意見をいただき、特に態度の評価については、総括的評価だけでは無く、形成的評価としての頻繁なフィードバックにより繰り返し指導して育成することも重要である等の意見をいただいた。また、行政的な意見としても医師確保の観点から群馬県に残るような医師を輩出して欲しいとの意見もいただいた。</p> <p>【具体的な改善事例】 より多くの医師を輩出する観点からも特に態度系の評価の重要性について確認された。アンプロフェッショナルな行動があった場合の指導を含め、評価方法を検討し今後の評価のあり方を継続して審議する予定である。</p>
理工学部 理工学府	<p>【意見・指摘事項等】 2年目を迎えた改組カリキュラムの説明と、それに対する意見・助言を頂いた。機械と電気の両方ともできる教育は重要という意見、機械の4つの力学がきちんと理解できていることが重要という意見、手描き製図は重要という意見、モデルベース開発（MBD）の要素を導入されたいという意見、詰込みになる可能性があるので継続的に教育効果をチェックされたいという意見、など様々なご意見を頂いた。またコロナ禍における教育の在り方についても意見交換がなされた。</p> <p>【具体的な改善事例】 （学外委員による外部評価委員会） 産業界、研究機関、教育機関のメンバーかならなる外部評価委員会の意見は、社会が求める人材像を知る手掛かりとして大変重要である。PDCAサイクルの最後に当たる「A：改善の実行」がもっとも重要である。頂いた意見を新カリキュラム完成へ向けた参考とし、継続的な教育改善に活かした。</p>

6. その他 特記事項

特になし

7. 根拠資料

(「授業評価のアンケート用紙、集計結果」、「学生との懇談会の配付資料・記録」、「FD活動の資料」、「意見調査票、集計結果」等)

学部等	根拠資料
大学教育・ 学生支援機構	<ol style="list-style-type: none"> 1. 令和4年度前期 授業評価（学びのリテラシー1）集計表 2. 令和4年度前期 授業評価（データ・サイエンス）集計表 3. 令和4年度前期 授業評価（データ・サイエンス・オンデマンド）集計表 4. 令和4年度後期 授業評価（学びのリテラシー2）集計表 5. 令和4年度 学長と学生との懇談会記録 6. 第14回 全学FD連続講演会「大学教育のグランドデザイン」開催案内 7. 令和3年度ベストティーチャー賞「学長賞受賞者による公開模擬授業」実施通知 8. 令和4年度 卒業時アンケート 結果のポイント・集計表 9. 令和4年度 修了業時アンケート 集計表 10. 令和4年度 学習ふりかえりアンケート 結果のポイント・集計表 ※自由記述なし
共同教育学部 教育学研究科	<ol style="list-style-type: none"> 1. 令和4年度 前期・後期 授業評価アンケート 集計結果 2. 令和4年度 前期 授業評価アンケート WEB画面 3. 授業評価アンケート結果に基づく授業改善（教員対象）集計結果 4. 令和4年度 学部長との懇談会 要望のまとめ 5. 教職リーダーコース 大学院での学修に関する意見聴取 結果 6. 教員間相互授業研究 Week（ピア・レビュー週）実施要項 7. 附属学校園・公開研究会 報告書 8. 教育実習A, C, Dおよび幼稚園実習 報告書 9. 附属小学校・提案授業及び授業研究会 報告書 10. 附属学校園における大学教員の公開授業 報告書 11. 新任教員FD研修会 報告書 12. 教職リーダーコース 公開シンポジウム「ぐんまの教師力を高める2022」ウェブページ抜粋 13. 教職リーダーコース FD研修会（広報紙「風」抜粋） 14. 令和4年度「教育実習AおよびB」に関するアンケート 集計結果 15. 教職リーダーコース M2 課題研究報告会 アンケート 集計結果 16. 教職リーダーコース 課題研究中間報告会(1)参加者アンケート 集計結果 17. 教職リーダーコース 課題研究中間報告会(2)参加者アンケート 集計結果 18. 授業実践開発コース 課題研究レビュー検討会に関するアンケート 集計結果 19. 授業実践開発コース 課題研究計画検討会に関するアンケート 集計結果 20. 授業実践開発コース 課題研究報告会に関するアンケート 集計結果 21. 教育実習A, C, D運営協議会 資料（抜粋） 22. 教育実習B運営協議会 資料（抜粋） 23. 教育実習A, C, D研究協議会 資料（抜粋） 24. 教育実習B研究協議会 資料（抜粋） 25. 令和4年度 群馬大学教職大学院教育課程連携協議会 議事録
情報学部	<ol style="list-style-type: none"> 1. 令和4年度 前期・後期 授業評価アンケート 集計結果 2. 令和4年度 学部長との懇談会 案内・記録 3. 令和4年度 FD「新任教員セミナー・シリーズ」実施一覧

学部等	根拠資料
社会情報学部 社会情報学研究科	<ol style="list-style-type: none"> 1. 令和4年度 前期・後期 授業評価アンケート 集計結果 (社会情報学部) 2. 令和4年度 前期・後期 授業評価アンケート 集計結果 (社会情報学研究科) 3. 令和4年度 学部長との懇談会 案内・記録 4. 令和4年度 研究科長との懇談会 案内・記録 5. 令和4年度 F D「新任教員セミナー・シリーズ」実施一覧 6. 令和4年度 卒業時アンケート 設問・集計結果 (社会情報学部) 7. 令和4年度 修了時アンケート (教育評価アンケート) 設問・集計結果 (社会情報学研究科)
医学部 医学科	<ol style="list-style-type: none"> 1. 令和4年度 後期 教職員と医学科学友会による懇談会 2. 臨床実習の評価に関するF D 案内 3. 「医療プロフェッショナル」教育講演会資料 (令和5年2月14日) 4. 令和4年度 医学教育教授法F D 次第 5. 令和4年度 医学部医学科 医系の国語表現F D 次第 6. 令和4年度 医学科卒業時アンケート 結果概要 7. 令和4年度 第1回カリキュラム評価委員会 次第 8. 令和4年度 第2回カリキュラム評価委員会 次第 9. 令和4年度 第3回カリキュラム評価委員会 次第 10. 令和4年度 第4回カリキュラム評価委員会 次第 11. 令和4年度 第5回カリキュラム評価委員会 次第
医学部 保健学科	<ol style="list-style-type: none"> 1. 令和4年度 保健学科前期授業評価アンケート 集計結果 2. 令和4年度 保健学科後期授業評価アンケート 集計結果 3. 群馬大学医学部保健学科学友会との懇談会 資料 4. 令和4年度 保健学教育F D 次第・出席状況 5. 令和4年度 保健学科卒業予定者アンケート 集計結果
医学系研究科	<ol style="list-style-type: none"> 1. 2022年度 医学系研究科 授業評価アンケート (前期) 集計結果 2. 2022年度 医学系研究科 授業評価アンケート (後期) 集計結果 3. 群馬大学大学院医学系研究科F D 次第 4. 重粒子線医理工学グローバルリーダー養成プログラム 修了生へのアンケート回答 (対象: 2021年度修了生) 集計結果 5. 重粒子線医理工学グローバルリーダー養成プログラム 就職先へのアンケート回答 (対象: 2021年度修了生) 集計結果
保健学研究科	<ol style="list-style-type: none"> 1. 2022年度 保健学研究科 博士前期課程 授業評価アンケート (看護学) 集計結果 2. 2022年度 保健学研究科 博士前期課程 授業評価アンケート (生体情報検査科学) 集計結果 3. 2022年度 保健学研究科 博士前期課程 授業評価アンケート (リハビリテーション学) 集計結果 4. 令和4年度 保健学研究科懇談会 議事録 5. 令和4年度 保健学研究科懇談会 院生参加者名簿 (氏名等削除) 6. 全学修了時アンケート調査 (保健学研究科) 集計結果
理工学部 理工学府	<ol style="list-style-type: none"> 1. 令和4年度 理工学部授業改善のためのアンケート (最終調査) 設問・結果票 2. 授業改善アンケートに関する学生と教員との懇談会 記録 3. 2022年度 理工学府・理工学部 公開授業に関するアンケート 集計結果 4. 令和4年度 卒業・修了時アンケート調査 (理工学部・理工学府) 集計結果 5. 学外委員による外部評価委員会 実施状況

令和4年度 授業評価 実施状況一覧

		合 計		内 訳			
				前 期		後 期	
		実施科目(題目)	アンケート回収数	実施科目(題目)	アンケート回収数	実施科目(題目)	アンケート回収数
教養教育科目	学びのリテラシー	68	1,551	21	889	47	662
	データ・サイエンス	22	850	22	850	—	—
	小 計	90	2,401	43	1,739	47	662
専門教育科目	共同教育学部	958	4,614	485	2,801	473	1,813
	情報学部	100	4,131	46	2,448	54	1,683
	社会情報学部	101	403	31	263	70	140
	医学部医学科	53	2,718	33	1,449	20	1,269
	医学部保健学科	272	5,908	149	3,591	123	2,317
	理工学部	373	11,813	172	6,675	201	5,138
	小 計	1,857	29,587	916	17,227	941	12,360
大 学 院	教育学研究科	149	229	72	127	77	102
	社会情報学研究科	51	137	27	80	24	57
	医学系研究科	59	62	26	45	33	17
	保健学研究科	3	23	3	23	—	—
	理工学府	126	1,107	61	595	65	512
	小 計	388	1,558	189	870	199	688
合 計		2,335 (2,319)	33,546 (33,927)	1,148 (1,152)	19,836 (20,654)	1,187 (1,167)	13,710 (13,273)

※ () 書きは、昨年度の実績。